

げんじものがたり きりつぼ
源氏物語 桐壺

いづれの御時おおんとぎにか、女御にょつぎ、更衣こういあまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむんごとなき際きわにはあらぬが、すぐれて時ときめきたまふもうありけり。はじめより我われはと思いひ上いがりたまへる御おんかたがた、めざましきものにおとしめ嫉そねみたまふもう。同じほど、それより下臈げろうの更衣こういたちは、ましてやすからず。朝夕あさゆうの宮仕みやつかえにつけても、人の心をのみ動かうらし、恨うらみを負おふ積うりにやありけむん、いとあ

つしくなりゆき、もの心細こころほそげに里がちなるを、いよいよ
あかずあはれなるものに思おほして、人のそしりをもえ
憚はばからせたまはず、世のためしにもなりぬべき御おんもてな
しなり。